

報道関係各位

2016年9月28日

株式会社出版デジタル機構

www.pubridge.jp

出版デジタル機構、コンテンツ制作支援ソリューション

Picassol(ピカソル)のサービス提供を開始

株式会社出版デジタル機構(東京都千代田区神田錦町、代表取締役社長 新名新、以下 出版デジタル機構)は、コンテンツ制作支援ソリューション Picassol(ピカソル)のサービス提供を開始致します。

出版デジタル機構は、電子出版ビジネスのインフラ提供(電子書籍制作代行から取次・配信、アーカイビング等)を通して電子書籍市場を拡大することを第一の目的として、2012年4月に設立されました。以来、電子取次事業においては1,200以上の出版社、および200以上の電子書店と連携し、38万点以上の電子書籍データを流通させ、国内電子書籍市場の拡大を推進してまいりました。

この度、当社では、出版社における紙と電子の制作フローを効率化し、将来にわたって利用可能なコンテンツファイルの保持をめざすコンテンツ制作支援ソリューション、Picassol(ピカソル)のサービス提供を開始致します。

Picassolは、一つのコンテンツファイルから多様な出力を可能とするコンテンツファーストの実現をめざして、株式会社講談社(以下 講談社)と日本電気株式会社(以下 NEC)が共同開発した原稿作成・編集ソフト Smart Source Editor(以下 SSE、※)をベースに開発されたサービスです。これを当社サービス基盤の pubridge Cloud 上で展開することにより、みなさまにも手軽に安価でお使いいただけるようになります。

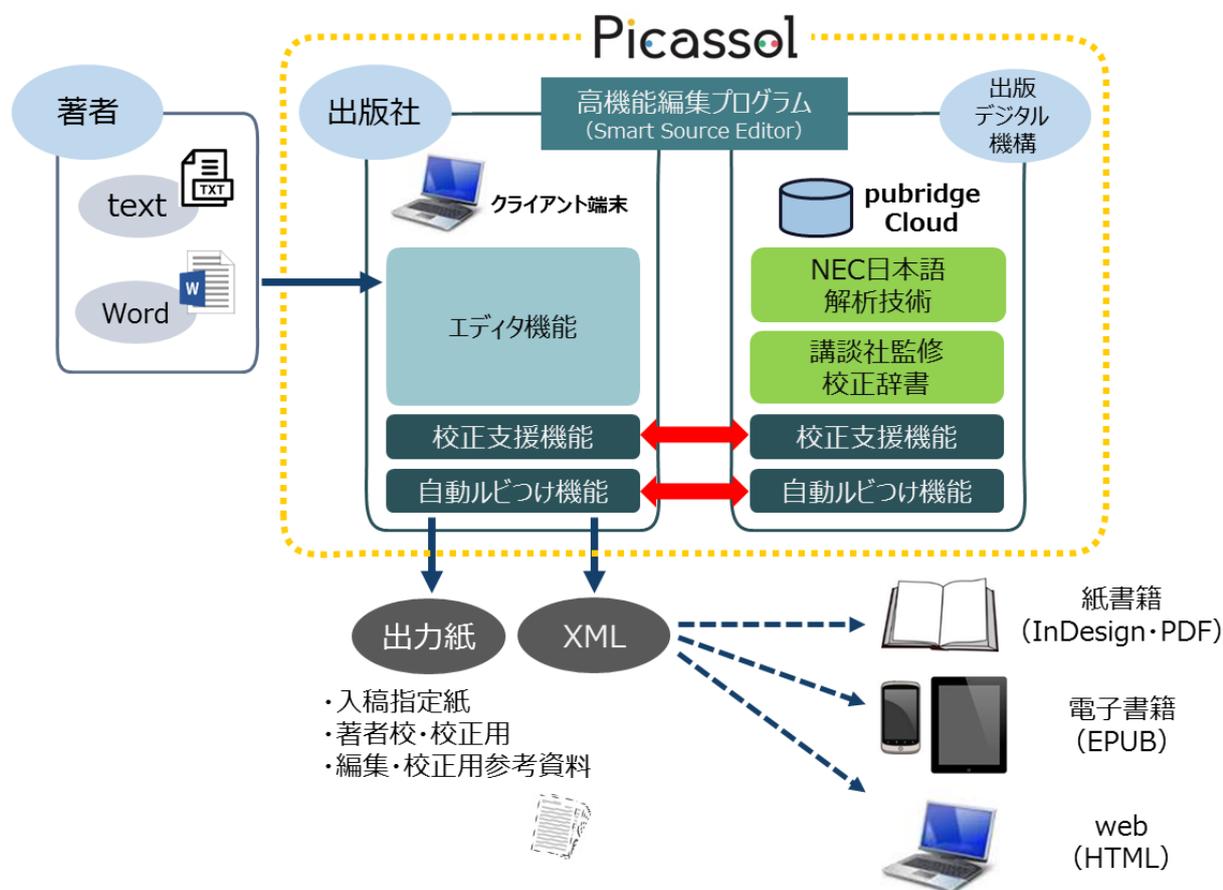
数年前から出版・印刷業界では、どんな媒体にも展開できる「汎用データ」をもとにした制作フローへの移行が急務であると言われてきました。この課題を解決すべく、Picassolは保存形式に印刷物、電子書籍、webなどあらゆる形式に展開できる汎用テキストデータ(独自仕様 XML)を採用しています。これにより、特定のアプリケーションや OS、バージョンに依存することなく、雑誌連載、単行本、文庫本、電子書籍、さらにはwebまで、マルチな展開が可能となります。

また、単語だけでなく、単語の前後の意味も捉える NEC の日本語解析技術と講談社校閲部が長年にわたって培ってきたノウハウおよび知見が凝縮された校正用辞書の搭載により、精度の高い原稿整形機能、校正支援機能をはじめとした多彩な機能を実現しています。これにより、出版社の編集・入稿作業の大幅な効率化に寄与することができるものと考えております。

今後も出版デジタル機構は、電子書籍や POD の流通はもちろん、Picassolをはじめとした新規事業を通して、紙と電子の双方において、デジタルテクノロジーによる出版業界の活性化をはかると共に、社会、文化の発展に寄与してまいります。

※Smart Source Editor(スマート・ソース・エディター)は講談社の登録商標です。

■導入イメージ



Picassolとは、pubridge Intellectual Property Create Assistance Solution の略です。

<株式会社出版デジタル機構について>

電子出版ビジネスの市場を拡大し、新規参入を促すインフラを構築すべく設立。あらゆる端末、あらゆる電子書店、あらゆる出版社を結ぶ架け橋となり、電子出版市場をつくっていくことを目的としている。

サービス名称の「pubridge (パブリッジ)」は、Publish (出版) と Bridge (橋) を組み合わせた造語。

商号: 株式会社出版デジタル機構 (サービス名称: パブリッジ) 代表取締役社長: 新名新 設立: 2012年4月2日

資本金: 13億5,862万5千円 URL: <http://www.pubridge.jp>

このリリースに関するお問い合わせは出版デジタル機構 (宮武、金子) までお願い致します。

TEL: 03-6837-1875 MAIL: press@pubridge.jp